

4年言語と文学 (MYP 5 Language and literature) 【現代の国語：2単位 / 言語文化：2単位】

科目のねらい

MYP「言語と文学」のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A:分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。
B:構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C:創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D:言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
前期 (4月～9月)	1	1. ものの見方 2. グローバル化と持続可能性 3. コミュニケーション、批判的思考、転移	【現代の国語】 「理解から新たなアイデアの創出へ」 ・知識・技能 (1) アイエオカ (2) アイウエオ ・思考・判断・表現 B(1) アイウ C(1) アイ (教科書) 第3章「デジタル社会」 他	【クリティカル・エッセイ】 「課題文を批評した上で、課題テーマについて、私たちに求められていることは何かを考察する。」 【B】現代の様々な課題に対する意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。 【C】個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し、批判的に振り返りながらテキストを創作する。 【D】批評文としてふさわしい語彙や概念を表す用語を用い、適切な構文・文字で記述する。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学びに向かう態度-C
	2	1. 文化 2. 個人的表現と文化的表現 3. 情報リテラシー、批判的思考	【言語文化】 「古典文化の再現」 知識・技能 (1) アイウエオ (2) アイウエカ 思考・判断・表現 A(1) アイ B(1) アイウエオ (2) アイウエオ (教科書) 『伊勢物語』『土佐日記』『徒然草』他	【コメンタリー・脚本】 「文化的背景やコンテキストを踏まえた脚本の創造」 【A】(コメンタリー) 文化的背景などのリサーチを脚本にどのように活かしたのかを示すことができる。 【C】(脚本) 古典の文法事項、文化を理解し、創造的な脚本を書くことができる。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-C ③主体的に学びに向かう態度-A
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 個人的表現と文化的表現 3. コミュニケーション、批判的思考、転移	【現代の国語】 「表現の深層」 知識・技能 (1) アイエオカ (2) アイウ 思考・判断・表現 A アイウ B アイ 安部公房「良識派」 三崎亜紀「ゴール」等	【提言】 「表現の深層にある偏見」 【A】対象作品の表現を分析し、新たな見方を示す。また、示された課題に対する向き合い方を提示する。 【B】分析の根拠を論理的に説明する。 【C】個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し、批判的に振り返りながらテキストを創作する。 【D】適切な語彙および非言語コミュニケーション技法を効果的に使用する。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学びに向かう態度-BC
	4	1. つながり 2. 時間的・空間的位置づけ 3. 批判的、創造的、転移	つながりと再構築 【言語文化】 知識・技能 (1) アイウエオ (2) アイウエオカ 思考・判断・表現 A(1) ア B(1) アイウエオ (2) アイウエオ (教科書) 『羅生門』『羅生門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと』『春望』『平泉』他	【コメンタリー・ポスター】 「文学作品の変遷と影響」 【A】複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。 【B】(コメンタリー) 分析の根拠を論理的に説明する。 【D】(ポスター) 選択作品を文法事項等をふまえて正しく理解し、分析の結果を適切で多様な語彙、図や表を使用し、視覚的に明確な表現をする。	①知識・技能-AB ②思考・判断・表現-D ③主体的に学びに向かう態度-B